

(公社) 日本植物学会 平成26年度事業報告

(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

I. 事業の状況

計画の概要

本学会は、植物科学に関する研究の進展と知識の普及に関する事業を行い、学術の発展に寄与することを目的としている。平成26年度は、下記の2公益事業を中心に、高い公益性を実現するための施策と事業を展開した。

(公益事業1) 学会誌及び学術図書の発行、及びインターネットによる植物学と関連技術の最新情報公開

学術雑誌の刊行については、Journal of Plant Research (JPR) 127巻1号～6号(6冊)の発行と電子出版を行った。植物科学関連の学術集会、研究動向、出版物、研究助成公募、求人公募等の植物科学教育研究情報を収集し、その情報を学会情報誌や日本植物学会ホームページを通じて提供した。さらに一般向け情報をホームページ上で公開した。JPRの国内外の研究機関等への寄贈と交換を行った。植物学会の所蔵図書を会員や外部閲覧希望者に無料で公開した。

(公益事業2) 研究発表大会及びシンポジウム・学術講演会・講習会の開催及び関連団体との協働による植物科学の発展と関連技術の振興の推進

定例学術集会として、日本植物学会大会を明治大学生田キャンパスにて開催した。また社会への啓発活動等として、大会において一般向け公開講演会および高校生研究ポスター発表会を開催した。学術業績の表彰その他研究の奨励として、日本植物学会賞の選考と授与を行った。さらに、大会時に高校生研究ポスター賞を授与した。また各種団体による賞・研究助成金公募への推薦を行った。国内外の関係学術団体、学術連合との連絡及び交流などを協力事業として行った。講演会、講習会等の主催、共催および後援を行った。その他、地方の関連学会を通じた研究動向調査、植物科学教育研究情報の収集と公開を行った。

1. 学会誌及び学術図書の発行、及びインターネットによる植物学と関連技術の最新情報公開 (公益事業1)

ア. 学術雑誌及びその他の出版物の刊行(電子情報も含む)

JPR編集委員会

(1) Journal of Plant Research (JPR): Vol. 127 No. 1～No. 6、(A4変形版、論文頁数818頁、紙版: 年6回隔月(奇数月)発行、発行部数2,250部、オンライン版: 随時維持・整備)の編集と発行を行った。質の高い論文誌発行のための施策を検討し、実施した。IFやその他の指標(ゼロ被引用論文数、分野別・国別被引用数等)の解析による、ジャーナルの国際的な評価の向上策を実施した。

- (2) JPR編集協力委員 (Editorial Board Member) の協力による編集体制の強化、読者データベースおよび投稿・審査システムの充実を行った。編集方針の整備と公開を行った。
- (3) 著者・購読者に対するサービスの向上のために学会ホームページ上での和文要旨の公開、投稿ガイドライン・規程類の整備と公開を行った。
- (4) 編集委員会、拡大編集委員会 (大会会期中) を開催し、JPRの質の向上のための意識統一と施策の検討を行った。
- (5) Ecological Research (日本生態学会)、Population Ecology (個体群生態学会)、Plant Species Biology (種生物学会)、Journal of Ethology (動物行動学会) と協力し、雑誌間を横断したバーチャルイシューの準備を行った。

広報委員会

- (1) 会員向けサービスとして、植物科学関連の学術集会、研究動向、出版物、研究助成公募、就職公募等の植物科学教育研究情報を収集し、学会ホームページに情報を提供した。また収集した情報を学会情報誌生物科学ニュースとして編集した。
- (2) 一般向けサービスとして、植物科学に関する研究成果を「植物科学の最前線」などのコンテンツとしてまとめ、学会が取り組む各事業内容をアピールした。
- (3) JPRの国際情報発信力強化に向け、学会ホームページ国際化に向けての方策を検討した。

ホームページ委員会

- (1) 会員・一般向けサービスとして、学会ホームページの維持・管理、生物科学ニュースの維持を行った。
- (2) 学会ホームページの刷新に向けての準備を行った。

「植物学の百科事典」編集委員会

一般向け学術百科事典「植物学の百科事典」の出版にむけ、「植物学の百科事典」編集委員会を中心に監修、執筆を行った。

イ. Journal of Plant Research の国内外の研究機関への寄贈と交換

- (1) 国内外の研究機関等とJPRの寄贈と交換を行った。
- (2) JPRとの交換で得られた雑誌を本学会員や外部閲覧者に無料で公開した。

ウ. 植物学関連図書の閲覧公開

植物学会の所蔵図書を会員や外部閲覧希望者に無料で公開した。

2. 研究発表大会及びシンポジウム・学術講演会・講習会の開催及び関連団体との協働による植物科学の発展と関連技術の振興の推進 (公益事業2)

ア. 学術集会、講演会、講習会などの開催

大会実行委員会

- (1) 日本植物学会第78回大会を平成26年9月12日から9月14日までの3日間、明治大学 生田キャンパスで開催した。一般向け公開講演会「私達の暮らしを支える植物の多様な遺伝資源」(平成26年9月14日実施)の企画と実施、シンポジウムの公募と選定を行った。公募シンポジウム、口頭・ポスター発表、高校生ポスター発表会、展示ブースのためのプログラム作成と会場設営を行った。理事会企画シンポジウム「本音で語ろう若手のキャリアパス～研究者貧乏よ、さらば～」(平成26年9月14日実施)、男女共同参画委員会が準備するランチョンセミナー「Living and working together: 若手研究者が直面する壁とその打開策」(平成26年9月13日実施)を、理事会、男女共同参画委員会と協議して実施した。新たな試みとして、会員提供による植物写真・植物画の作品展を実施した。高校生を対象に「日本植物学会員と高校生との交流会」(平成26年9月14日実施)を開催し、植物科学の啓発に努めた。
- (2) 会員サービスとして、講演要旨集の電子媒体(電子ブック版)での提供を新たに開始した。
- (3) 学会本部と共に託児室サービスを実施した。
- (4) 大会の実施にあたって、運営に関しては庶務担当理事と、経理に関しては会計担当理事と連絡を密にし、大会の運営にあたった。
- (5) 日本植物学会賞受賞者(大賞1件、学術賞1件、奨励賞3件、若手奨励賞3件、特別賞2件、JPR論文賞3件)の授賞式と講演会を行った。高校生ポスター発表会の優秀ポスターについて、表彰を行った。

広報委員会

日本植物学会第78回大会における理事会企画シンポジウム及び講習会等を通じ、人材育成、教育事業の広報活動を行った。

男女共同参画委員会

男女共同参画ランチョンセミナーを大会実行委員会と協議して大会期間中に開催した。

運営委員会

- (1) 庶務担当理事は大会の運営に関して、会計担当理事は大会の経理に関して、大会実行委員会の担当者と協議し運営を補佐した。
- (2) 庶務担当理事は、年次学術集会中の以下の委員会の開催に必要な会場について、大会実行委員会の担当者と協議した(運営委員会、臨時代議員会、JPR編集委員会、JPR拡大編集委員会、学会賞選考会議、拡大広報委員会、男女共同参画委員会、大会引き継ぎの会合)。

学会全体として

講演会、講習会等の共催、後援および協賛を行った。

--共催 3 件

・第27回国際ポリフェノール会議 2014 名古屋 (ICP2014) (主催: 第27回国際ポリフェノール会議組織委員会) 平成26年9月2日～ 6日 会場: 名古屋大学豊田講堂・シンポジオン、野依記念学術交流館、東山動植物園

・日本植物形態学会第26回大会 (主催: 日本植物形態学会) 平成26年9月11日 会場: 明治大学生田キャンパス

・理数系学会教育問題連絡会シンポジウム「これからの理数系教育を考える2014」(共同主催: 理数系学会教育問題連絡会会員各学会の有志) 平成26年10月26日 会場: 一橋講堂

---後援 7 件

・「『青少年のための科学の祭典』2014各大会」(主催: (公財)日本科学技術振興財団人財育成部「青少年のための科学の祭典事務局」) 平成26年5月18日～ 平成27年3月31日 会場: 全国各地84会場

・「初等中等教育における海洋教育の意義と課題」(主催: 日本学術会議) 平成26年8月1日 会場: 日本学術会議講堂

・「第3回 高校生バイオサミット in 鶴岡」(主催: 高校生バイオサミット実行委員会) 平成26年8月3日～ 5日 会場: いこいの村 庄内、鶴岡市先端研究産業支援センター、慶應義塾大学先端生命科学研究所 バイオラボ棟

・「平成26年度創薬等支援技術基盤プラットフォーム公開シンポジウム」(主催: 創薬等支援技術基盤プラットフォーム事務局) 平成26年8月27日 会場: よみうり大手町ホール

・第12回シトクロムP450国際シンポジウム-生物多様性とバイオテクノロジー (主催: 第12回シトクロムP450国際シンポジウム実行委員会) 平成26年9月24日～28日 会場: 京都市国際交流会館

・「IIRS創立十周年記念学術講演会」(主催: 認定NPO法人 総合画像研究支援 (IIRS)) 平成26年11月7日 会場: 東京大学・伊藤国際学術研究センター

・Fascination of Plants Day (FoPD; 国際植物の日)

---協賛 2 件

・第16回マリンバイオテクノロジー学会大会 (主催: マリンバイオテクノロジー学会) 平成26年5月31日～ 6月1日 会場: 三重大学生物資源学部校舎

・第59回低温生物工学会大会 (主催: 低温生物工学会) 平成26年6月28日 会場: 九州大学箱崎キャンパス

イ. 研究業績の表彰その他研究の奨励

学会賞選考委員会

(1) 平成26年度日本植物学会賞候補者の選考(日本植物学会賞大賞、日本植物学会賞学術賞、日本植物学会賞奨励賞、日本植物学会賞若手奨励賞、日本植物学会賞特別賞(技術・教育・その他))を行い、会長に報告してその了承を得るとともに理事会に報告をした。

(2) 平成27年度日本植物学会賞の選考にあたり、候補者の募集を行った。

JPR編集委員会は、JPRに掲載された論文からJPR論文賞候補を選考し、会長に報告してその了承を得るとともに、理事会に報告をした。

ウ. 国内外の関係学術団体との連絡及び協力

学協会委員

光生物学協会、理数系学会教育問題連絡会、自然史学会連合、男女共同参画学協会連絡会に委員を派遣し、協力した。

男女共同参画委員会

第13期男女共同参画学協会連絡会の幹事学会（植物生理学会と共同幹事）として連絡会を運営し、運営委員会およびシンポジウムの開催準備を行った。

学会全体

- (1) 日本学術会議第二部基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同植物科学分科会と連携し、日本学術会議主催公開シンポジウムの共催、日本の政策決定に向けて実施する提言の作成、および提言を実現するための具体的な施策に関する事項を担当した。
- (2) 生物科学学会連合を通じて、参加学会との連携・協力を強化した。
- (3) 地方の植物学会との連携・協力を行った。

エ. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

地方の植物学会を通じた研究動向調査、広報委員会を通じて、植物科学教育研究情報の収集とホームページを用いた公開を行った。

3. 管理業務

運営委員会

- (1) 平成25年度の事業報告案と決算案を検討、作成した。
- (2) 平成26年度補正予算案及び平成27年度の事業計画案と予算案を検討、作成した。
- (3) 学会全体と学会内の委員会が関与する諸事項を検討し、事前に対応策を立案し、理事会へ提案した。
- (4) 英文論文誌JPRの活性化を継続的に行った。
- (5) 学会の財政基盤を安定化するために、総合的な検討を行った。
- (6) 学会の活性化のため、会員数の維持・増加にむけての方策を検討した。
- (7) 日本植物学会表彰制度の実施と広報の活発化を図った。
- (8) 学会運営の合理化に関して、予算措置を含め検討し、効率的な学会の構築策を立案した。

庶務関係

- (1) 代議員会開催に関する準備と運営を行った。
- (2) 公益社団法人日本植物学会第2期代議員選挙を実施した。
- (3) 会員サービスの向上を目的として地方の植物学会との連携を推進した。
- (4) 関連委員会との連携を強化した。
- (5) 公益法人体制における各種規程・契約の審議基準の見直し等、本部業務全般に渡る業務効率化の推進を行った。
- (6) 会員名簿の作成を行った。

会計関係

- (1) 平成26年度の経理管理と決算処理を遂行し、平成27年度予算原案を策定した。
 - ① 単年度経常収支均衡を原則とする弾力性のある経理管理を行った。
 - ② 会計報告(月次)および決算報告(年次)を行った。
 - ③ 単年度経常収支均衡の原則下での活力のある学会を目指した予算を策定した。
 - ④ 収入増、支出減のための所要の施策を提言した。
- (2) 各委員会等の新規事業立案に対して経理面での建議、支援を行った。
- (3) 各種引当預金の使用計画を具体的に策定した。
 - ① 中長期的視点に立った使用計画を立案した。
- (4) 中長期的学会運営に関し経理面の課題を検討し、対策を提案した。
- (5) 公益法人資格を維持するために必要な業務を行った。
 - ① 公益法人認定基準に照らした学会運営状況を確認した。
 - ② 内閣府公益認定等委員会へ事業計画、事業報告等を提出した。

広報委員会

- (1) 学会広報活動に関わる組織の効率的な運営のために、各関連委員会、WGが所掌する作業項目の見直しと組織再編成を行った。
- (2) ホームページの永続的な運用方法について、サーバー管理の外部委託も視野に入れて検討を行った。

選挙管理委員会

公益社団法人日本植物学会第2期代議員選挙を実施した。

II. 処務の概要

1. 定例代議員会1回、臨時代議員会1回、理事会4回、運営委員会2回およびその他の会合を開催した。
2. 諸規則の整備を行った。
3. 公益社団法人日本植物学会第2期代議員選挙を実施した。(平成26年6月21日開票)

4. 役員等に関する事項

(1) 平成26年 会長、理事、監事

【役員・理事】

代表理事（会長） 戸部 博 （京都大学名誉教授）
 専務理事 加藤美砂子 （お茶の水女子大）
 副専務理事 杉山 宗隆 （東京大）
 編集担当理事 西田 生郎 （埼玉大）
 理事 園池 公毅 （早稲田大）
 理事 田中 歩 （北海道大）
 理事 西谷 和彦 （東北大）
 理事 久堀 徹 （東京工業大）
 理事 福田 裕穂 （東京大）
 理事 三村 徹郎 （神戸大）
 庶務担当理事 阿部 光知 （東京大）
 会計担当理事 國府方吾郎 （国立科学博物館）

【役員・監事】

大森 正之 （中央大）
 邑田 仁 （東京大）

(2) 公益社団法人日本植物学会第2期代議員 48名

地区	定数 (人)	氏名	所属	
北海道	3	大原 雅	北海道大 院 地球環境科学研究院	
		田中 歩	北海道大 低温科学研究所	
		藤田 知道	北海道大 院 理学研究院	
東北	3	高橋 秀幸	東北大 院 生命科学研究科	
		西谷 和彦	東北大 院 生命科学研究科	
		横山 潤	山形大 理 生物学科	
北陸	2	岩坪 美兼	富山大 院 理工学研究部	
		西川 周一	新潟大 理 生物学科	
東関東	6	河野 重行	東京大 院 新領域創成科学研究科	
		朽津 和幸	東京理科大 理工 応用生物科学	
		小林 正智	理化学研究所 BRC実験植物開発室	
		佐藤 忍	筑波大 院 生命環境科学研究科	
		佐治 光	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター	
		馳澤 盛一郎	東京大 院 新領域創成科学研究科	
西関東	5	青木 俊夫	日本大 生物資源科学部 応用生物科学科	
		川合 真紀	埼玉大 院 理工学研究科	
		西田 生郎	埼玉大 院 理工学研究科	
		久堀 徹	東京工業大 資源化学研究所	
		日原 由香子	埼玉大 院 理工学研究科	
東京	8	池内 昌彦	東京大 院 総合文化研究科	
		今市 涼子	日本女子大 理 物質生物学科	
		杉山 宗隆	東京大 院 理学系研究科	
		園池 公毅	早稲田大 教育・総合科学学術院	
		塚谷 裕一	東京大 院 理学系研究科	
		寺島 一郎	東京大 院 理学系研究科	
		永田 典子	日本女子大 理 物質生物学科	
		村上 哲明	首都大学東京 院 理工学研究科	
中部	5	芦苺 基行	名古屋大 生物機能開発利用研究センター	
		川口 正代司	基礎生物学研究所	
		木下 俊則	名古屋大 トランスフォーマティブ生命分子研究所	
		長谷部 光泰	基礎生物学研究所	
		東山 哲也	名古屋大 トランスフォーマティブ生命分子研究所	
	近畿	7	荒木 崇	京都大 院 生命科学研究科
			柿本 辰男	大阪大 院 理学研究科
			高木 慎吾	大阪大 院 理学研究科
			田村 実	京都大 院 理学研究科
			長谷 あきら	京都大 院 理学研究科
中国	3	西村 いくこ	京都大 院 理学研究科	
		三村 徹郎	神戸大 院 理学研究科	
		嶋村 正樹	広島大 院 理学研究科	
四国	2	高橋 裕一郎	岡山大 院 自然科学研究科	
		山口 富美夫	広島大 院 理学研究科	
九州	3	奥田 一雄	高知大 総合科学系 黒潮圏科学	
		日詰 雅博	愛媛大 教育 生物	
		内海 俊樹	鹿児島大 院 理工学研究科	
沖縄	1	澤 進一郎	熊本大 院 自然科学研究科	
		仁田坂 英二	九州大 理 生物	
		山崎 秀雄	琉球大 院 海洋自然科学科	

5. 代議員会

(1) 定例代議員会

平成 26 年 3 月 1 日（土）13:00-14:20、東京大学理学部 2 号館 第 2 講義室（223 号室）において開催、次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催年月日	議決事項	
平成 26 年 3 月 1 日	第一号議案 平成 25 年度決算報告(案)	承認

(2) 臨時代議員会

平成 26 年 9 月 11 日（木）17:00-20:20、明治大学生田キャンパス第一校舎 6 号館（6-206）において開催、次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催年月日	議決事項	
平成 26 年 9 月 11 日	第一号議案 公益社団法人日本植物学会細則第 20 条の改定(案)	承認
	第二号議案 公益社団法人日本植物学会細則第 26 条第 3 項の改定(案)	承認
	第三号議案 平成 27 年度大会会長について	承認
	第四号議案 次期選挙管理委員について	承認

6. 理事会

(1) 平成26年度第一回理事会

平成 26 年 1 月 25 日（土）13:00-18:10、東京大学理学部 2 号館 第 2 講義室（223 号室）において開催、審議事項は以下の通りである。

開催年月日	議決事項	
平成 26 年 1 月 25 日	(1)平成 25 年度事業報告（案）	承認
	(2)平成 25 年度決算報告（案）	承認
	(3)ハイスクール会員について	継続審議
	(4)広報委員会の再編について	継続審議
	(5)公益社団法人日本植学会特定費用準備資金等取扱規則の制定について	承認
	(6)公益社団法人日本植物学会大会開催に関する覚書の改定（案）	承認
	(7)公益社団法人日本植物学会大会開催に関する覚書の別表 1 について	承認
	(8)公益社団法人日本植物学会賞受賞者選考規程の改定（案）	承認
	(9)公益社団法人日本植物学会賞の選考に関する覚書の改定（案）	承認
	(10)大会目的の特定寄付の設定について	承認
	(11)公益社団法人日本植物学会非常勤職員給与規程修正（案）	承認
	(12)会費未納による会員資格喪失対象者について	承認
	(13)平成 26 年度公益社団法人日本植物学会第二期代議員選挙について	承認
	(14)会計補佐委員について	承認
	(15)平成 26 年度定例代議員会について	承認

(2) 平成26年度第二回理事会

平成 26 年 7 月 26 日（土）13:00-19:00、東京大学理学部 2 号館 第 2 講義室（223 号室）において開催、審議事項は以下の通りである。

議決年月日	議決事項	
平成 26 年 7 月 26 日	(1) 広報委員会の改革案について	承認
	(2) 公益社団法人日本植物学会細則の改定(案)	承認
	(3) 公益社団法人日本植物学会広報委員会内規の改定(案)	承認
	(4) 公益社団法人日本植物学会電子出版物編集委員会内規の制定(案)	承認
	(5) 公益社団法人日本植物学会ホームページ委員会内規の廃止(案)	承認
	(6) 公益社団法人日本植物学会平成 27 年度事業計画(案)	承認
	(7) 公益社団法人日本植物学会平成 26 年度補正予算(案)	承認
	(8) 公益社団法人日本植物学会平成 27 年度予算(案)	承認
	(9) JPR 論文賞選考規程の改正(案)	承認
	(10) JPR 論文賞の選考ミス再発防止のための対策(案)	承認
	(11) JPR 編集委員報酬規程の改定(案)	承認
	(12) 公益社団法人日本植物学会役員候補者選任規程の改定(案)	取下
	(13) 公益社団法人日本植物学会選挙管理委員会内規の改定(案)	取下
	(14) 公益社団法人日本植物学会倫理委員会内規の改定(案)	承認
	(15) 公益社団法人日本植物学会倫理規定の改定(案)	承認
	(16) 大会要旨の取り扱いについて	承認
	(17) 生物科学学会連合次期代表候補者の推薦について	承認
	(18) ハイスクール会友(仮称)について	承認
	(19) JPR 国際情報発信強化策の提案	承認
	(20) JPR 編集室非常勤職員の時給について	承認
	(21) 非常勤職員給与規程の改定(案)	取下
	(22) 外国人旅費の件について	承認
	(23) 著者割配信について	承認
	(24) 平成 27 年度大会会長について	承認
	(25) 次期選挙管理委員について	承認
	(26) 平成 26 年度臨時代議員会について	承認

(3) 平成26年度第三回理事会

平成 26 年 8 月 7 日（木）、定款 29 条 2 項に基づく理事会決議において開催、審議事項は以下の通りである。

議決年月日	議決事項	
平成 26 年 8 月 7 日	(1) 公益社団法人日本植物学会細則第 26 条第 3 項の改定(案)	承認

(4) 平成26年度第四回理事会

平成 26 年 12 月 26 日（金）、定款 29 条 2 項に基づく理事会決議において開催、審議事項は以下の通りである。

議決年月日	議決事項	
平成 26 年 12 月 26 日	(1) JPR 編集室非常勤職員の時給について	承認

7. その他

公益法人化に伴う諸規則の整備を行った。

Ⅲ. 会員の推移（夏期）

【人】

会員種別	2005. 7.1	2006. 7.5	2007. 7.2	2008. 7.1	2009. 7.1	2010. 7.13	2011. 7.14	2012. 7.9	2013. 8.1	2014. 8.13
名誉会員	9	9	9	9	9	9	8	8	7	7
正会員	2,128	2,071	1,994	1,991	1,919	1,937	1,915	1,855	1,907	1,903
内終身会員	21	19	18	18	13	13	12	11	11	10
内50年会員	107	117	119	117	123	121	119	125	124	121
内学生会員	408	385	358	415	390	418	396	347	408	426
内上記以外の 正会員	1,592	1,550	1,499	1,441	1,393	1,385	1,388	1,372	1,364	1,346
団体会員	25	27	25	18	15	15	14	14	14	14
賛助会員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1
海外個人 会員（日本 人含む）	113	100	99	114	111	110	126	122	137	124
合 計	2,277	2,209	2,129	2,134	2,056	2,073	2,065	2,001	2,067	2,049

Ⅳ. JPRの出版状況の推移

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
投稿件数	107	318	356	379	428	393	410	459	481	562
（国内）	44	84	77	71	90	86	70	66	62	61
（海外）	63	234	279	308	338	307	340	393	419	501
出版論文数	21	94	67	61	94	82	69	73	81	74
（国内）	12	57	43	37	58	50	42	47	37	37
（海外）	9	37	24	24	36	32	27	26	44	37
IF	1.202	1.225	1.415	1.590	1.524	1.512	1.746	2.059	2.507	

Ⅴ. 学術集会（大会）の参加者数・演題数の推移

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
開催地	富山	熊本	野田	高知	山形	春日井	東京	姫路	北海道	神奈川
参加者数	760	735	900	734	672	766	975	742	808	1,002
演題数	487	487	456	488	434	523	571	474	552	547

事業報告に係る附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。